設定の最適化されたローミング

- ローミングの最適化に関する情報，1 ページ
- ローミングの最適化の制約事項，1 ページ
- ローミングの最適化の設定（GUI），2 ページ
- ローミングの最適化の設定（CLI），2 ページ

ローミングの最適化に関する情報

ローミングの最適化は、遠隔地のアクセス ポイントに長時間アソシエートし続けているクライアントや、接続が不安定な Wi-Fi ネットワークに接続を試みるアウトバウンド クライアントの問題を解決します。 この機能は、クライアント データ パケットの RSSI とデータ レートに基づいてクライアントをアソシエート解除します。 クライアントは、RSSI アラーム条件が満たされ、現在のデータ レートが最適化ローミング データ レートのしきい値を下回っている場合にアソシエート解除されます。 データ レート オプションを無効にして、RSSI のみをクライアントのアソシエート解除に使用するようにできます。

ローミングの最適化は、クライアントの RSSI が低いときにもクライアント アソシエーションを阻止します。 この機能は、RSSI しきい値に照らして受信クライアントの RSSI をチェックします。 このチェックで、クライアントに有効な接続がない限り、クライアントの Wi-Fi ネットワークへの接続が阻止されます。 クライアントはビーコンを受信して Wi-Fi ネットワークに接続できても、信号が弱いために安定した接続をサポートできない場合がよくあります。

ローミングの最適化を使用することによって、無線に対してクライアント カバレッジ レポート間隔を設定することもできます。 クライアント カバレッジの統計情報には、データ パケット RSSI、カバレッジ ホールの検出および軽減（CHDM）の事前アラーム障害、再送信要求と現在のデータ レートが含まれます。

ローミングの最適化の制約事項

- 802.11a/b ネットワークを無効にするまで、ローミングの最適化の間隔を設定できません。

ローミングの最適化の設定（GUI）

ステップ 1 [Wireless] > [Advanced] > [Optimized Roaming] を選択します。 [Optimized Roaming] ページが表示されます。

ステップ 2 802.11 帯域のローミングの最適化を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにします。
802.11 帯域のローミングの最適化を有効にした後で、ローミングの最適化の間隔、およびデータ レートのしきい値を設定できます。

ステップ 3 [Optimized Roaming Interval] テキスト ボックスで、アクセス ポイントがコントローラに対してクライアント カバレッジの統計情報をレポートする間隔を入力します。
クライアント カバレッジの統計情報には、データ パケット RSSI、カバレッジ ホールの検出および軽減（CHDM）の事前アラーム障害、再送信要求と現在のデータ レートが含まれます。 範囲は 5 ～ 90 秒です。 デフォルト値は 90 秒です。

（注） ローミングの最適化のレポート間隔を設定する前に、802.11a/b ネットワークを無効にする必要があります。 レポートの間隔に対して低い値を設定すると、カバレッジ レポートのメッセージでネットワークが過負荷になることがあります。

ステップ 4 [Optimized Roaming Data Rate Threshold] テキスト ボックスに、クライアントのしきい値データ レートの値を入力します。
次のデータ レートが使用可能です。

- 802.11a：6、9、12、18、24、36、48、および 54。
- 802.11b：1、2、5.5、11、6、9、12、18、24、36、48、および 54。

ローミングの最適化は、クライアントのデータ パケットおよびデータ レートの RSSI に基づいてクライアントのアソシエートを解除します。 クライアントの現在のデータ レートが、[Optimized Roaming Data Rate Threshold] よりも小さい値の場合は、クライアントはアソシエート解除されます。

次の作業

ローミングの最適化は、アソシエーションのときにクライアント RSSI をチェックします。 この RSSI 値は、設定されている CHDM RSSI に対して 6 db ヒステリシスで検証されます。 カバレッジ ホールの検出に対して設定された RSSI しきい値を検証するには、[Wireless] > [802.11a/n/ac]（または [802.11b/g/n]）> [RRM] > [Coverage] を選択して、802.11a/ac（または 802.11b/g/n）をオープンし、[RRM] > [Coverage page] を選択します。

ローミングの最適化の設定（CLI）

ステップ 1 次のコマンドを入力して、ローミングの最適化を有効または無効にします。

config advanced{**802.11a**| **802.11b**} **optimized-roaming**{**enable**| **disable**}

デフォルトでは、ローミングの最適化は無効になっています。

ステップ 2 次のコマンドを入力して、802.11a/b ネットワークのクライアント カバレッジのレポート間隔を設定します。
config advanced{**802.11a**| **802.11b**} **optimized-roaming interval***seconds*

範囲は 5 ～ 90 秒です。 デフォルト値は 90 秒です。

（注） ローミングの最適化のレポート間隔を設定する前に、802.11a/b ネットワークを無効にする必要があります。

ステップ 3 次のコマンドを入力して、802.11a/b ネットワークのしきい値データ レートを設定します。
config advanced{**802.11a**| **802.11b**} **optimized-roaming datarate***mbps*

802.11a の場合、設定可能なデータ レートは 6、9、12、18、24、36、48、および 54 です。 802.11b の場合、設定可能なデータ レートは、1、2、5.5、11、6、9、12、18、24、36、48、および 54 です。 データ レートを無効にするには 0 を設定します。

ステップ 4 このコマンドを入力して、各帯域のローミングの最適化の情報を表示します。
show advanced{**802.11a**| **802.11b**} **optimized-roaming**

```
(Cisco Controller) > show advanced 802.11a optimized-roaming
OptimizedRoaming
  802.11a OptimizedRoaming Mode................... Enabled
  802.11a OptimizedRoaming Reporting Interval.... 20 seconds
  802.11a OptimizedRoaming Rate Threshold........ disabled
```

ステップ 5 次のコマンドを入力して、最適なローミング統計に関する情報を表示します。
show advanced{**802.11a**| **802.11b**} **optimized-roaming stats**

```
(Cisco Controller) > show advanced 802.11a optimized-roaming stats
OptimizedRoaming Stats
  802.11a OptimizedRoaming Disassociations....... 0
  802.11a OptimizedRoaming Rejections............ 0
```